

## 日本語教育人材の養成・研修に関する概要

【Ⅰ】活動分野：国内 海外

【Ⅱ】日本語教育人材の役割：日本語指導者・日本語指導補助者・コーディネーター

【Ⅲ】人材養成・研修の概要

1. 機関・団体	<p>名称：<b>独立行政法人 国際交流基金</b></p> <p>主な日本語教育事業</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○海外の日本語教育に関する調査の実施、日本語教材・教授法の開発・普及、日本語能力試験実施、日本語教師・日本語学習者の訪日研修等の海外における日本語教育・学習の基盤・環境整備</li> <li>○日本語専門家派遣による現地教師の育成・ネットワーク構築や日本語講座の運営、現地日本語教育機関の日本語普及活動への支援</li> </ul>
2. 養成・研修概要	<p>1) 研修・講座の名称: 日本語専門家派遣候補者に対する派遣前研修</p> <p>2) 研修の目的及び育成しようとしている人物像</p> <p>派遣前研修の目的:</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>(1) 国際交流基金(以下、基金)が実施する日本語事業に関する知識を得て、その考え方を理解し、深める。</li> <li>(2) 任地で基金日本語事業としての日本語教育を実施するために必要な知識を身に付ける／確認する</li> <li>(3) 基金による派遣制度の仕組みやルールを理解する</li> </ul> <p>育成しようとしている人物像:</p> <p>研修では、業務についての理解を深めることを目指すが、業務を通じて以下のような力を身につけて成果を生むことが望まれる。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・地域のニーズや課題を把握し、解決法を探り、適切な方策を選ぶ、または仕事を創造し、他者と協働で問題解決する力、またはイノベーションを起こしていく力</li> <li>・教育についての概念的な枠組み(JF 日本語教育スタンダード、各地の教育理念など)を理解し、現地に合った応用を生み出す力</li> </ul> <p>3) 研修対象・受講資格: 基金の日本語専門家として世界各地に派遣が予定されている者</p> <p>4) 受講方法: 研修施設での宿泊研修</p> <p>5) 研修実施時期及び期間: 7日間 例年3月上旬</p> <p>6) 研修実施時間数: 42時間 30分</p> <p>7) 受講料: なし</p> <p>8) 教育実習・実践演習等の有無: 明確な形ではなし(セッションによっては、ワークショップ内で模擬的な教授活動を行う場合もある)</p> <p>9) 修了要件: 特になし</p> <p>10) 評価及び認定の方法: なし(研修期間中に職員・担当講師によるモニターは行われ、必要な場合にはフィードバックが行われる。)</p> <p>11) 受講修了者の進路(活動分野): 基金派遣の日本語上級専門家(以下、上級専門家)・日本語専門家(以下、専門家)として赴任地での業務遂行</p>

<p>3. 養成・研修の 科目一覧</p>	<p>科目(指導項目)一覧を記載してください。その際、次ページの平成12年「日本語教員養成において必要とされる教育内容」の区分①～⑯のどこに該当する(もしくは内容的に近い)か、番号を記載してください。当てはまらない場合は★を記載してください。既成のシートに番号・★を追記いただくことも構いません。例)【理論編】ファシリテーション(★) 【実践編】フィールドワーク実習(⑩)</p> <p><b>【平成28年度の例】</b></p> <p>事前課題(①②③④⑩★業務マネジメント)</p> <p>西原所長講演(①②③④⑤⑥⑧⑨⑩⑪★業務、キャリアマネジメント)</p> <p>機関種別業務計画(①②③④⑩★業務マネジメント)</p> <p>業務関連:基金事業の概要・方針説明/[専門家]派遣の目的および[専門家]の心構え/JF日本語講座概要説明/基金プログラム紹介/派遣に関する諸手続き/報告書作成/海外での安全管理(③⑤⑥★業務マネジメント)</p> <p>日本語教育関連ワークショップ:JF日本語教育スタンダードの概要、JF日本語教育スタンダードの活用、『まるごと』(A1、A2 レベル)の概要と活用、E-ラーニング、『まるごとプラス』の概要と活用、『まるごと』(B1 レベル)の概要と活用(③④⑤⑥⑩⑫⑯)</p> <p>『まるごと』OJT デザイン(★業務マネジメント、キャリアマネジメント)</p> <p>日本語教育とマネジメント(★業務マネジメント)</p> <p>日本語能力試験 説明(③)</p> <p>研修中間まとめとふりかえり(★業務マネジメント)</p> <p>機関種別業務計画ポスター発表(★業務マネジメント)</p> <p>全体ふり回り・まとめ(★業務マネジメント)</p>		
<p>4. 養成・研修の 内容</p>	<p>平成12年の「日本語教員養成において必要とされる教育内容」に含まれるもの</p> <p>※実施していないものを取り消し線で消してください。(例、<del>文明</del>、<del>哲学</del>) 追加科目を【 】に記載してください。</p> <p>回答者注記: <input type="text"/>は、公募の筆記試験、面接の出題範囲となっているが、派遣前研修では、特に科目として設定していない。</p>		
<p>領域</p>	<p>区分</p>	<p>区分(①～⑯)</p>	<p>内容</p>
<p>社会・文化・地域に関わる領域</p>	<p>社会・文化・地域</p>	<p>①世界と日本</p>	<p>歴史、文化、文明、社会、教育、哲学、国際関係、日本事情、日本文学 【グローバル社会、スタンダードムーブメント、21世紀型スキル、キー・コンピテンシー】</p>
		<p>②異文化接触</p>	<p>国際協力、文化交流、留学生政策、移民・難民政策、研修生受入政策、外国人児童生徒、帰国児童生徒、地域協力、精神衛生 【異文化理解能力・異文化間能力・異文化調整能力】</p>
		<p>③日本語教育の歴史と現状</p>	<p>日本語教育史、言語政策、教員養成、学習者の多様化、教育哲学、学習者の推移、日本語試験、各国語試験、世界各地域の日本語教育事情、日本各地域の日本語教育事情 【世界の言語教育の動向、スタンダードムーブメント】</p>
		<p>④言語と社会の関係</p>	<p>ことばと文化、社会言語学、社会文化能力、言語接触、言語管理、言語政策、言語社会学、教育哲学、教育社会学、教育制度【 】</p>

教育に関わる領域	言語と社会	⑤言語使用と社会	言語変種, ジェンダー差・世代差, 地域言語, 待遇・ポライトネス, 言語・非言語行動, コミュニケーション・ストラテジー, 地域生活関連情報 【課題遂行能力】	
		⑥異文化コミュニケーションと社会	異文化需要・適応, 言語・文化相対主義, 自文化(自民族)中心主義, アイデンティティ, 多文化主義, 異文化間トランス, 言語イデオロギー, 言語政策 【複言語・複文化主義】	
	言語と心理	⑦言語理解の過程	言語理解, 談話理解, 予測・推測能力, 記憶, 視点, 言語学習 【 】	
		⑧言語習得・発達	幼児言語, 習得過程(第一言語・第二言語), 中間言語, 言語喪失, バイリンガリズム, 学習過程, 学習者タイプ, 学習ストラテジー 【 】	
		⑨異文化理解と心理	異文化間心理学, 社会的スキル, 集団主義, 教育心理, 日本語の学習・教育の情意的側面 【 】	
	言語と教育	⑩言語教育法・実習	実践的知識, 実践的能力, 自己点検能力, カリキュラム, コースデザイン, 教室活動, 教授法, 評価法, 学習者情報, 教育実習, 教育環境, 地域別・年代別日本語教育法, 教育情報, ニーズ分析, 誤用分析, 教材分析・開発 【CEFR, JF日本語教育スタンダード, ポートフォリオ, パフォーマンス評価, 問題発見・解決型学習 (Project-based Learning: PBL)、内容言語統合型学習 (Content and Language Integrated Learning: CLIL)】	
		⑪異文化間教育・コミュニケーション教育	異文化間教育, 多文化教育, 国際・比較教育, 国際理解教育, コミュニケーション教育, スピーチ・コミュニケーション, 異文化コミュニケーション訓練, 開発コミュニケーション, 異文化マネジメント, 異文化心理, 教育心理, 言語間対照, 学習者の権利 【 】	
		⑫言語教育と情報	教材開発, 教材選択, 教育工学, システム工学, 統計処理, メディアリテラシー, 情報リテラシー, マルチメディア 【e-learning, ソーシャルメディア】	
	言語に関わる領域	言語	⑬言語の構造一般	一般言語学, 世界の諸言語, 言語の種類, 音声の種類, 形態(語彙)の種類, 統計の種類, 意味論の種類, 語用論の種類, 音声と文法 【 】
			⑭日本語の構造	日本語の系統, 日本語の構造, 音韻体系, 形態・語彙体系, 文法体系, 意味体系, 語用論的規範, 表記, 日本語史 【 】
			⑮言語研究	理論言語学, 応用言語学, 情報学, 社会言語学, 心理言語学, 認知言語学, 言語地理学, 対象言語学, 計量言語学, 歴史言語学, コミュニケーション学 【コーパス】
			⑯コミュニケーション能力	受容・理解能力, 表出能力, 言語運用能力, 談話構成能力, 議論能力, 社会文化能力, 対人関係能力, 異文化調整能力 【課題遂行能力, コミュニケーション言語活動, コミュニケーション言語能力】

※3領域5区分以外については、こちらに記載してください。	その他	【マネジメ ント】	【業務のマネジメント】  【キャリアのマネジメン ト】	事務処理、教育カリキュラム、人材開発、プロジェクト管理、他機関とのネットワーク作り  派遣先の学習者や教師達の日本語教育上のキャリア開発
5. 特徴的な内容	<p>貴団体に養成する日本語教育人材の活動分野及び役割に対して、特徴的な内容や近年の変化・変遷がありましたら、記載をお願いします。</p> <p>派遣専門家の業務は、1970年代から1980年代には、直接教授型(派遣された機関の日本語学科の立ち上げ、カリキュラム・教材制作、授業担当、任国日本語教師への助言・指導等を行なうもの)が中心であったが、1990年代後半以降、アドバイザー型(任国・地域の教師研修、シラバス・カリキュラム・教材開発への協力、調査、学校訪問、教師会等ネットワーク構築支援等を行なうもの)が中心になってきた。</p> <p>どのような派遣先においても、現地の日本語教師が主体となって行う日本語教育を、側面から支援する「日本語教育支援」の専門家であることが共通して求められる。つまり、日本語教育の専門家であるだけでなく、任国の教育行政や日本語教育事情等に関する情報収集力、企画・立案能力、調整・交渉能力、事務処理能力なども必要とされる。また、将来、専門家の派遣が終了した後、に何が残せるかについてもよく考えた上で現地の日本語教師等と関わっていくことが求められる。</p>			
6. 育成する日本語教育人材に求められる資質・知識・能力	<p>1) 資質 2) 知識 3) 能力 について平成12年報告に示された、下記内容について該当する場合は、□に☑を付けてください。また、活動分野及び役割別の 1) 資質 2) 知識 3) 能力 については、□以下に記載をお願いします。</p> <p><b>1) 資質</b></p> <p><input checked="" type="checkbox"/>日本語ばかりでなく広く言語に対して深い関心を有している</p> <p><input checked="" type="checkbox"/>鋭い言語感覚を有している</p> <p><input checked="" type="checkbox"/>国際的な活動を行う教育者として、豊かな国際的感覚を有している</p> <p><input checked="" type="checkbox"/>国際的な活動を行う教育者として、豊かな人間性を備えている</p> <p><input checked="" type="checkbox"/>日本語教育の専門家として、自らの職業の専門性を有している</p> <p><input checked="" type="checkbox"/>日本語教育の専門家として、自らの職業の意義についての自覚と情熱を有している</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・他者と協働できる柔軟性</li> <li>・問題解決にあたる積極性、創造性</li> <li>・前向きに感情を処理する態度</li> <li>・自身を客観的に振り返る態度</li> </ul> <p><b>2) 知識</b></p> <p><input checked="" type="checkbox"/>外国語や学習者の母語(第一言語)に関する知識</p> <p><input checked="" type="checkbox"/>対照言語学的視点からの日本語の構造に関する知識</p> <p><input checked="" type="checkbox"/>言語使用に関する知識</p> <p><input checked="" type="checkbox"/>言語発達に関する知識</p> <p><input checked="" type="checkbox"/>言語の習得過程に関する知識</p> <p><input checked="" type="checkbox"/>日本の教育制度に関する知識</p> <p><input checked="" type="checkbox"/>日本の歴史・文化事情に関する知識</p>			

	<p><input checked="" type="checkbox"/> (赴任地の) 諸外国の教育制度に関する知識</p> <p><input checked="" type="checkbox"/> 諸外国に歴史・文化事情に関する知識</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ グローバル社会の状況に関する知識</li> <li>・ 業務遂行や問題解決の方法の知識</li> <li>・ ICTを駆使する知識</li> </ul> <p><b>3) 能力</b></p> <p><input checked="" type="checkbox"/> 日本語を正確に理解し的確に運用できる能力</p> <p><input checked="" type="checkbox"/> 言語教育者として必要とされる学習者に対する実践的なコミュニケーション能力</p> <p><input checked="" type="checkbox"/> 外国語や学習者の母語(第一言語)に関する知識, 対照言語学的視点からの日本語の構造に関する知識, 言語使用や言語発達及び言語の習得過程等に関する知識を活用する能力</p> <p><input checked="" type="checkbox"/> 学習者のニーズに関する的確な把握・分析能力</p> <p><input checked="" type="checkbox"/> 教育課程の編成, 授業や教材等を分析する能力</p> <p><input checked="" type="checkbox"/> 教育課程の編成, 授業や教材等に対する総合的知識と経験を教育現場で実際に活用・伝達できる能力</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 任国の教育行政や日本語教育事情等に関する情報収集力</li> <li>・ 日本語教育関連事業の企画・立案能力</li> <li>・ 関係する諸機関や関係者との調整・交渉能力</li> <li>・ 業務を円滑に行うための事務処理能力</li> </ul>
7. 養成・研修を担当する講師の格 要件や選定基準	基金所属の専任講師等、基金海外拠点での主任講師を複数回経験している講師等
8. 現行の養成・研 修プログラムの実 施による成果・効 果	<p>派遣前研修終了後、上級専門家・専門家として世界各地に派遣され、各地の日本語教育の現状やニーズを踏まえ、現地の機関や教師と連携しつつ、各国の日本語教育の発展に貢献し、課題の解決を行っている。</p> <p>成果が顕著な例としては、現地の教育省等と連携して行ったシラバス・教材の開発、教師研修がある（例：インドネシア、タイ、ベトナム、フィリピンなど）。</p>
9. 現行の養成・研 修プログラムにお ける課題（改善を 検討したい点）と 展望	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 1週間程度という短期間で、個々の派遣先の業務についての具体的な理解につなげることが難しい。</li> <li>・ 初等教育、中等教育、高等教育、一般への教育と学習段階により、全く違う業務や資質・能力が求められており、それらに対応していくことが十分にできているとは言えない。</li> <li>・ 海外での仕事を希望する人が減少しており、応募者数が減少していることが大きな課題であり、対応が急務である。</li> </ul>
10. その他 (人材養成・研修に 関する御意見・御 要望などありました ら、記載してく ださい。)	

## 日本語教育人材の養成・研修に関する概要

【Ⅰ】活動分野：国内 海外

日本語教育の対象者：

【Ⅱ】日本語教育人材の役割：日本語指導者・日本語指導補助者 コーディネーター

【Ⅲ】人材養成・研修の概要

1. 機関・団体	<p>名称：<b>独立行政法人 国際交流基金</b></p> <p>主な日本語教育事業</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○海外の日本語教育に関する調査の実施、日本語教材・教授法の開発・普及、日本語能力試験実施、日本語教師・日本語学習者の訪日研修等の海外における日本語教育・学習の基盤・環境整備</li> <li>○日本語専門家派遣による現地教師の育成・ネットワーク構築やモデル日本語講座の運営、現地日本語教育機関の日本語普及活動への支援</li> </ul>
2. 養成・研修概要	<p>1) 研修・講座の名称：国際交流基金”日本語パートナーズ”派遣前研修</p> <p>2) 研修の目的及び育成しようとしている人物像</p> <p><b>派遣前研修の目的</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>① 事業の趣旨を理解し、”日本語パートナーズ”としての心構えを身につける。</li> <li>② 派遣先で安全に生活するための安全管理、健康管理の知識と技術を身につける。</li> <li>③ “日本語パートナーズ”としての活動に必要な知識と技術を身につける。</li> </ul> <p><b>育成しようとしている人物像</b> (注: 上記③に関して)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>ア. 派遣国の教師、生徒の日本語レベルや現地の教育事情を理解し、日本語能力が初級～初中級レベルの教師や生徒にとってわかりやすい日本語を使うことができる。</li> <li>イ. 日本語授業に際し、派遣国の教師と円滑に協働し、生徒の様子を見ながらほめたり励ましたりすることができる。</li> <li>ウ. 教科書と関連するテーマについて、平易な日本語を使い、双方向型・体験型の日本事情・日本文化紹介をすることができる。</li> </ul> <p>3) 研修対象・受講資格：以下の応募資格を有し、第一次選考（書類審査）、第二次選考（面接・適性検査）で合格した方</p> <p><b>応募資格</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>①本事業の趣旨及び派遣制度を理解し、日本とASEAN諸国との架け橋となる志をもった方</li> <li>②現地の一般的な水準の生活環境（住居、暮らしぶりなど）に対応できる方</li> <li>③満20歳から満69歳である方</li> <li>④日本国籍を有し、日本語母語話者である方</li> <li>⑤日常英会話ができる方（英語で最低限の意思疎通が図れる程度）</li> <li>⑥国際交流基金が指定する派遣前研修全日程に参加できる方</li> <li>⑦SNS、ウェブサイト等を活用して本事業の広報や活動についての情報発信に協力できる方</li> <li>⑧心身ともに健康な方</li> <li>⑨基本的なパソコン操作ができる方（Eメールの送受信、簡単な文書や資料の作成など）</li> </ul> <p>注）派遣国によって学歴、語学レベルなどに追加要件あり</p> <p>4) 受講方法：(通信・通学など) 研修施設での宿泊研修</p> <p>5) 研修実施時期及び期間：(平成28年度の場合) 年5回、5,8,11,2,3月開講、4週間</p>

	<p>6) 研修実施時間数:        現地語研修 66 コマ＋一般科目 36 コマ＋日本語教育科目 43 コマ＝145 コマ        注 1) 1 コマ＝50 分 注 2) 上記のほか、任意参加の課外授業もあり</p> <p>7) 受講料: なし</p> <p>8) 教育実習・実践演習等の有無: 有</p> <p>9) 修了要件: 現地語の最終テストで一定レベルの成績を修めること。        (日本語教育関連では特に無し)</p> <p>10) 評価及び認定の方法: 日本語教育関連では特に無し</p> <p>11) 受講修了者の進路(活動分野): “日本語パートナーズ”</p>
<p>3. 養成・研修の        科目一覧</p>	<p>科目(指導項目)一覧を記載してください。その際、次ページの平成12年「日本語教員養成において必要とされる教育内容」の区分①～⑯のどこに該当する(もしくは内容的に近い)か、番号を記載してください。当てはまらない場合は★を記載してください。既成のシートに番号・★を追記いただくことも構いません。</p> <p>例) 【理論編】ファシリテーション(★) 【実践編】フィールドワーク実習(⑩)</p> <p>*インドネシア 5 期派遣予定者に対する研修の例(2016 年 2-3 月実施)</p> <p>I 事前課題 (③)</p> <p>II 現地語研修: インドネシア語研修(⑤⑪⑯)</p> <p>III 一般科目</p> <p>III-1 業務・生活関連(①②⑤⑥⑪⑫⑯★業務マネジメント)        “日本語パートナーズ”派遣の制度 1,2 / 旅行保険・健康管理体制 / 感染症対策・健康管理        海外での安全対策 / 安全管理 / 異文化コミュニケーションとストレスマネジメント/ 情報発信        【任意参加】今後のキャリア(一般) / 【任意参加】今後のキャリア(日本語教育分野)</p> <p>III-2 派遣国事情・対日関係・歴史関連(①⑤⑥)        インドネシア事情 / 日本の対 ASEAN 外交政策 / インドネシアのイスラム教について        東南アジアと日本の関係史 / インドネシアの文化と歴史</p> <p>III-3 スキル関係(⑫★日本文化実技)        ボイストレーニング / 自主企画(現地で役立ちそうな技術・スキルを研修参加者同士でシェア        する)        文化体験(茶道/浴衣着付けから選択)/ 【任意参加】パワーポイント講座/【任意参加】SNS 講座</p> <p>IV 日本語教育科目</p> <p>IV-1 派遣国の教育事情を知る(①③④⑤⑥⑧⑩⑭)        海外の日本語教育”日本語パートナーズ”の役割 / 外国人が学ぶ日本語        先生と話す・生徒と話す        インドネシア日本語教育事情</p> <p>IV-2 チーム・ティーチングを知り、やってみる(⑥⑧⑩⑭⑯)        チーム・ティーチング体験 / 教材・教具紹介 / “日本語パートナーズ”のためのサイト紹介        経験者に聞く / 日本語教育お助けヒント</p>

	IV-3 日本事情・日本文化を紹介する(①⑤⑥⑨⑩⑪⑬)			
	日本事情・日本文化紹介			
	IV-4 その他(⑩自己点検能力)			
	研修の振り返り			
4. 養成・研修の内容	平成 12 年の「日本語教員養成において必要とされる教育内容」に含まれるもの			
	※実施していないものを取り消し線で消してください。(例, 文明, 哲学) 追加科目を【 】に記載してください。			
	領域	区分	区分(①~⑬)	
	社会・文化地域に関わる領域	社会・文化・地域	① 世界と日本	歴史, 文化, 文明, 社会, 教育, 哲学, 国際関係, 日本事情, 日本文学【21世紀型スキル】
			② 異文化接触	国際協力, 文化交流, 留学生政策, 移民・難民政策, 研修生受入政策, 外国人児童生徒, 帰国児童生徒, 地域協力, 精神衛生【企画・協働能力, 日本文化実技】
			③日本語教育の歴史と現状	日本語教育史, 言語政策, 教員養成, 学習者の多様化, 教育哲学, 学習者の推移, 日本語試験, 各国語試験, 世界各地の日本語教育事情, 日本各地域の日本語教育事情【東南アジアの日本語教育事情, 派遣国の日本語教育事情】
		言語と社会	④ 言語と社会の関係	ことばと文化, 社会言語学, 社会文化能力, 言語接触, 言語管理, 言語政策, 言語社会学, 教育哲学, 教育社会学, 教育制度【派遣国の教育制度】
			⑤言語使用と社会	言語変種, ジェンダー差・世代差, 地域言語, 待遇・ポライトネス, 言語・非言語行動, コミュニケーション・ストラテジー, 地域生活関連情報【 】
			⑥異文化コミュニケーションと社会	異文化需要・適応, 言語・文化相対主義, 自文化(自民族)中心主義, アイデンティティ, 多文化主義, 異文化間トランス, 言語イデオロギー, 言語政策【 】
	教育に関わる領域	言語と心理	⑦言語理解の過程	言語理解, 談話理解, 予測・推測能力, 記憶, 視点, 言語学習【 】
			⑧言語習得・発達	幼児言語, 習得過程(第一言語・第二言語), 中間言語, 言語喪失, バイリンガリズム, 学習過程, 学習者タイプ, 学習ストラテジー【派遣国の学習者の学習傾向, 好まれる学習方法など】
⑨異文化理解と心理			異文化間心理学, 社会的スキル, 集団主義, 教育心理, 日本語の学習・教育の情意的側面【 】	
言語と教育	⑩言語教育法・実習	実践的知識, 実践的能力, 自己点検能力, カリキュラム, コースデザイン, 教室活動, 教授法, 評価法, 学習者情報, 教育実習, 教育環境, 地域別・年代別日本語教育法, 教育情報, ニーズ分析, 誤用分析, 教材分析・開発【チーム・ティーチング】		
	⑪異文化間教育・コミュニケーション教育	異文化間教育, 多文化教育, 国際・比較教育, 国際理解教育, コミュニケーション教育, スピーチ・コミュニケーション, 異文化コミュニケーション訓練, 開発コミュニケーション, 異文化マネージメント, 異文化心理, 教育心理, 言語間対照, 学習者の権利【フォリナー・トーク】		



<p>6. 育成する日本語教育人材に求められる資質・知識・能力</p> <p>※御参考:平成12年「日本語教育のための教員養成について」の「日本語教員として望まれる資質・能力」別添</p>	<p>1) 資質 2) 知識 3) 能力 について平成12年報告に示された, 下記内容について該当する場合は, □に☑を付けてください。また, 活動分野及び役割別の 1) 資質 2) 知識 3) 能力 については, □以下に記載をお願いします。</p> <p><b>1) 資質</b></p> <p><input type="checkbox"/>日本語ばかりでなく広く言語に対して深い関心を有している</p> <p><input type="checkbox"/>鋭い言語感覚を有している</p> <p><input checked="" type="checkbox"/>国際的な活動を行う教育者として, 豊かな国際的感覚を有している</p> <p><input checked="" type="checkbox"/>国際的な活動を行う教育者として, 豊かな人間性を備えている</p> <p><input type="checkbox"/>日本語教育の専門家として, 自らの職業の専門性を有している</p> <p><input type="checkbox"/>日本語教育の専門家として, 自らの職業の意義についての自覚と情熱を有している</p> <p><b>2) 知識</b></p> <p><input checked="" type="checkbox"/>外国語や学習者の母語(第一言語)に関する知識</p> <p><input type="checkbox"/>対照言語学的視点からの日本語の構造に関する知識</p> <p><input type="checkbox"/>言語使用に関する知識</p> <p><input type="checkbox"/>言語発達に関する知識</p> <p><input type="checkbox"/>言語の習得過程に関する知識</p> <p><input checked="" type="checkbox"/>日本の教育制度に関する知識</p> <p><input checked="" type="checkbox"/>日本の歴史・文化事情に関する知識</p> <p><input type="checkbox"/>諸外国の教育制度に関する知識</p> <p><input type="checkbox"/>諸外国に歴史・文化事情に関する知識</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 派遣国の教育制度に関する知識</li> <li>・ 派遣国の歴史・文化事情に関する知識</li> </ul> <p><b>3) 能力</b></p> <p><input checked="" type="checkbox"/>日本語を正確に理解し的確に運用できる能力</p> <p><input checked="" type="checkbox"/>言語教育者として必要とされる学習者に対する実践的なコミュニケーション能力</p> <p><input type="checkbox"/>外国語や学習者の母語(第一言語)に関する知識, 対照言語学的視点からの日本語の構造に関する知識, 言語使用や言語発達及び言語の習得過程等に関する知識を活用する能力</p> <p><input type="checkbox"/>学習者のニーズに関する的確な把握・分析能力</p> <p><input type="checkbox"/>教育課程の編成, 授業や教材等を分析する能力</p> <p><input type="checkbox"/>教育課程の編成, 授業や教材等に対する総合的知識と経験を教育現場で実際に活用・伝達できる能力</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・</li> <li>・</li> </ul>
--	--

7. 養成・研修を担当する講師の資格要件や選定基準	国際交流基金所属の日本語教育専門員、国際交流基金海外派遣日本語専門家等 注) 日本語教育科目に限る
8. 現行の養成・研修プログラムの実施による成果・効果	<ul style="list-style-type: none"> <li>・平成 27 年度に帰国した”日本語パートナーズ”168 名(有効回答 167 名分)のうち、85%の者が帰国後アンケートで「派遣前研修は『とても役に立った』または『まあ役に立った』と答えている。</li> <li>・平成 27 年度に帰国した”日本語パートナーズ”の受入機関を対象とするアンケート調査では、以下の結果が出ている。</li> <li>Q1 “日本語パートナーズ”の派遣は貴校にとって有意義だったか? →「とても有意義だった」または「まあ有意義だった」99.0%</li> <li>Q2 生徒の学習意欲の向上に貢献したか? →「とても貢献した」または「まあ貢献した」96.3%</li> <li>Q3 生徒の日本や日本文化についての知識増加、理解深化に貢献したか? →「とても貢献した」または「まあ貢献した」96.7%</li> <li>・帰国後の報告会では、「派遣前研修で習ったことのうち、印象的でかつ現地で役立ったのは『楽しい日本語』(=生徒の学習意欲に配慮すること)の大切さです」という声がよく聞かれる。</li> <li>・派遣前研修を通じて「離日までに何を準備すべきか」に気づく研修参加者も多いようで、派遣前研修終了後、茶道教室に通ったり、日本各地に写真を撮りに行ったりする人もいる。</li> </ul>
9. 現行の養成・研修プログラムにおける課題(改善を検討したい点)と展望	<ul style="list-style-type: none"> <li>・できれば派遣前研修期間内に派遣国の教師と会い、協働する機会が設けられるとよい。(現状では派遣国着任時の「合同研修」で初めて派遣国の教師と会うケースが多い)</li> <li>・チーム・ティーチング体験: 同じ国でも授業のやり方には様々なバリエーションが見られる。今後も現地調査を続け、研修参加者に派遣国の日本語教育事情について、現実的な情報を伝えられるようにしたい。</li> </ul>
10. その他  (人材養成・研修に関する御意見・御要望などありましたら、記載してください。)	